

KAWAI CULTURAL MUSEUM

川井村北上山地民俗資料館

資料館ニュースNo1. 1995年4月1日発行

下閉伊郡川井村大字川井2-187-1 TEL 0193-76-2111(内線83)



遊びの道具づくり

2月12日、資料館では手づくり教室が開催され20名ほどが集って昔なつかしい作業に挑戦しました。わらぞうりづくりは小国の左沢永次郎さん、竹トンボづくりは川井の古館利美さんが先生です。

先生の器用な手先を見ていた参加者たち、午後には自分でつくった作品を手にしていました。



企画展・2月22日～28日

フェルト工芸・奥畑智穂
OKUHATA・CHIHO



草木染ホームスパン

グループ
めんよう
作品展



展示館等で作品を見させていただき私もやってみたく思っていました。昨年5月から仲間入りさせていただき、やっと一枚織り上げました。白い毛から始まり…出来上がった時の感激は、いつまでも忘れられないと思います。いつか先輩の方々の様な素晴らしい物が織れたらいいなと思っています。 川内常子



お婆さんとバトンタッチで始めました。最後の仕上げまで気の抜けない大変な作業です。それだけに出来上がった時の喜びは最高です。 清水ミネ



草木染に興味があり始めました。身近な植物からの意外な色合に染めるたびに驚かされます。 松葉スエ



ホームスパンという言葉さえ知らずに教室に参加して織る楽しさを覚え、友達が増え、念願の展示会が出来て本当に嬉しいです。 澤田タツ子



今、社会問題にもなっている生涯学習あるいは生きがい。こういう大きい課題の答えが出来て本当に幸せに思っています。これからもずっと皆さんのお仲間に入れてください。よろしくお願いたします。
石澤紀子



身近にある草花からやさしい色に染め上がっていく、手で紡いだ糸で織り上げていく、ホームスピンの楽しさ。先に始めた人達の素敵な作品を見て、いつか私も作れるかな…夢を見ながら教室に通っています。
石井洋子



ホームスピンの教室ができることを聞いて喜んで飛び込み早いものでもう10年にもなるそうです。お陰様でいろいろ作りました。これからも体力の続くかぎりやっていきたいと思ひます。
古館カル（3月で満87歳）



近所のお婆さんがやっているのを見て始めました。なかなか難しいですが、出来上がると楽しいです。始めてよかったです。
里館ワカ



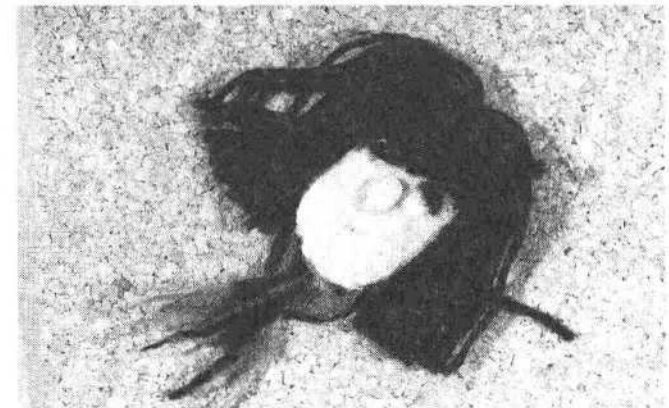
草木染のセーターが編みたくて始めました。なかなか思うようにはできなくて難しいです。
神楽イネ子



野に咲く花が染料、羊の毛が毛糸、見るのも、触れるのも初めて。毎週水曜日がとても待遠しいのです。
天内ケイ子



毛糸をいじるのが大好きです。今は、忙しくてなかなか教室へはいけません。毎日が忙しく過ぎて行く中、何時かまたやりたいという気持ちだけは持ち続けています。
藤岡和子



子連れで通ったホームスピン教室、仲間に迷惑かけながらの5年間でしただけど、とても楽しかったです。出来上がった作品はどれも世界中に一枚しかない貴重な物ばかり…又機会があったらぜひやってみたいなあと思ってますのでこれからもずっとずっと続いている事を願っています。
佐々木節子



川井村北上山地民俗資料館に期待するもの

(講演要旨)

岩手県立博物館長

金野 静一氏

1, 北上山地は金の宝庫だった

紹介に預かりました県立博物館長をしておりませう金野でございます。近江教育長さんとは、高校教員時代から旧知の仲でありましてそれもあって本日はお招きをいただいたのではないかと感謝しております。

さて、天平21年に日本で初めて金が発見されました。場所はどこかといいますと小田郡と書いてあります。そこがどこかということは、長年議論されてきました。

松尾芭蕉は「奥の細道」で平泉を訪れる訳ですが、その途中金華山によって「黄金花咲く…」とうたっているから、日本の金の最初の場所は金華山だとか、尾去沢だとか、陸前高田だとか諸説あったわけです。これが昭和32年の東北大学の発掘調査によって、宮城県の涌谷町だとわかった。天平の瓦が出てきたのです。川井村など、ほかの遺跡を発掘すると、古代から中世、そして近代までさまざまな出土品が出るわけですが、そこはなぜか天平ものしか出ない。金は出たことは出たのだが、どうも一回きりのようだったのであります。

陸奥守の百済王敬福の名前で、奈良の都に金九百両を届けたと書いたものがあります。その奈良では聖武天皇が大仏を建立していた。国家的事業として青銅で大仏を作り、金箔を塗って仕上げようとしたが、途中で金が無くなって中断していた。銅は、「和銅」という言葉があるように豊富だったが、金は殆どが朝鮮から買ってきていた。その金の見返りとして、持っていったものには「生口」と書かれている。この生口は、学者が論議してどうも「農奴」のようだという事になっている。それでも、金が朝鮮から来なくなったという状況のときに、さきほどいった小田郡の鉾山から金かとれて九百両という金が届いたから、もう朝廷は大喜びです。それでようやく大仏の開眼供養ができた。そうしたら、日本でも金とれるというこ

とが広まってこの北上山地はゴールドラッシュになったのです。アメリカの西部開拓のような勢いで、全国から金掘りがやってきてあらゆる沢々に入った。なにしろ、涌谷というところは北上山地の南端で流れ出た砂金が溜まっていたところですから、その奥の山にはもっとあるのでは、と岩手は勿論、秋田、青森にまで人が集まったようです。百済王敬福という人は、朝鮮にも繋がりのある人だったようで、涌谷に金掘りの技術者をたくさん招聘して仕事をさせていたようですが、そういう人も各地に散ってあちこちで金を掘り出したわけです。川井村にも小国や田代に金山がありますね。そうして日本国中が大騒ぎになって、ついに年号も「天平感宝」というように四文字に変えられた。四文字の年号なんてこの時が最初なわけで。また、陸奥の民は3年間税金が免除された、涌谷などは「永代免除」だった。こんなことはあとにもさきにもないという国家的なお祝いだったわけです。

ところが、この金を巡って摩擦が起きてきた。関東、関西からやってきた人達は前からいた人達を追い払っても、この金の出るところを抑えようということになった。多賀城や胆沢に城を築いて沢山の人を移住させたわけです。奥羽山脈にも金はないわけではないが、圧倒的に北上山地のほうが金が多く出て平泉文化や奈良の文化の発祥を原点から支えたというわけです。

2, 平泉文化は北上山地で生き延びた

さて、この北上山地には「義経伝説」がたくさんあります。この川井村にもありますね。鈴久名には静御前がきて、義経と逢ったとか「コキリコ」という踊りは、その静御前を慰めるものだったとか。それだから川井には静御前のような美人が多いとか。そんな話をしている人はなんぼみても美人には見えなかったのですが。(笑)つまりですね、なぜ北上山地に義経伝説が多いかということが問

題なんです。隣の遠野の上郷にはいまでも「風呂」という名字の家がある。これは、その昔、義経が来て逗留したとき風呂を用意してもらったという伝説からなんです。その風呂は「ゴエモン風呂」だったというから時代が合わなくておかしいんですが、(石川五エ門は豊臣時代)ともかく風呂に入って翌日は、仙人峠を越えて釜石の橋野に行ったというわけです。

三陸のほうにもあらゆる所に義経伝説がありますね。宮古の黒森などは「九郎の森」であって、ここで義経が3年暮らしたとか、普代では義経と弁慶に稗3升を貸して弁慶直筆の借用証書があるという家もあります。私もそれを見せてもらったのですが、ボロボロで読めない。どうしたかときくと、はじっこから腹痛や頭痛のときに煎じて飲んだというから、吹き出してしまいました。ともかく義経伝説の特徴は生存伝説なんです。みんな生きていたという前提で伝わっている。義経は、平泉で死んでいることはまちがいないんですね。これを生きていると思うということですね、そういう願望があったということです。義経伝説は種市、八戸を経て青森の三厩という所に行き、三頭の神馬に乗って北海道に渡ったとき、北海道の日高やあちこちにも義経伝説があります。そうしてついに蒙古へ渡って「ジンギスカン」になったという「英雄伝説」も生まれます。

これは、大正13年に大論争を巻き起こします。当時満州に居た小谷部善一郎という人が黒竜江省の伝説を調べているうちに、ジンギスカンの伝説と義経伝説があまりにもにていることに気づき、調べるほどにのめりこんで13項目にも及ぶ共通点を基に「源義経はジンギスカンなり」という本を出した。これは売れましたね。たちまちベストセラーになった。これに対し、東京大学の歴史学者を中心になってまとめた「義経はジンギスカンに非ず」という論文の特集で大論争になったわけです。歴史的には文治5年4月30日に義経が死んだということは証明されているわけですが、人々の心には英雄伝説を求めるものがあつた。私は郷土出身の学者の金田一京助氏の見解が一番的を得ていると思いますがそれは、「才能がありながら若くして非業の死を遂げた者には、人々は生きて夢を叶えてほしいという願望が生じ、それが嵩じて英雄伝説が生まれるのではないか。義経はその典型的な例となった。これは英雄不死伝説である。」というものであり、全く同感であります。

そして問題は義経がなぜ当時の交通の便が良かった日本海側に逃げないで交通の全く遮断された状態の北上山地から太平洋側に逃げたとされるのかということでもあります。文治5年8月には頼朝が

平泉にやって来ます。藤原泰衡は義経を殺したことを後悔しながら平泉のあらゆる館に火を放って今の秋田県へ逃れて行き、22日に頼朝がきたときには一面の焼け野原で、藤原の栄華を極めた街は跡形もなくなっています。この時頼朝は、今の岩手県の地域に37日間滞在し、砂金の開発、畜産の振興、山林の活用性の必要を悟ってそれに適した御家人を配したとされます。そういう中で頼朝の傘下に入れなかった人、あるいは入ることを拒んだ人、また入りたくても事情で入れなかった人、つまり与党になれなかった人達は、義経時代の思い出だけを懐いて全部北上山地の奥深く逃げ込んできたわけです。この川井村もそのひとつなわけです。そういう人達が口から口へ伝えてきた義経を悪人にする訳がない。次第にエスカレートして、ついに、「ジンギスカン」にまで祭りあげるようなそういう、平泉のよき時代を懐かしむ人々が、この北上山地で脈々と生きてきたのだ、ということをおし上げたいのです。いいかえるならば、本来の平泉文化を担った人々が北上山地に生き残り、平泉やその他の拠点都市には、頼朝傘下の関東、関西から移住してきた人々が住みついたのであって、本来の平泉文化はこの北上山地にこそ生き延びているともいえる訳であります。

3、木には神霊が宿っている。

私はさきほど、原村長さん、近江教育長さんに案内いただいて、川井村北上山地民俗資料館を見させていただきましたがすごいものですね。民俗資料とともに豊富な木が集められています。木というものはですね、単なる材料ではないんです。昔から木には霊が宿るといわれていますね、神社の木だけでなく、きこりの中でも一定の木を切るとあとは神の木だといって切らなかった。そういう伝承というのは、自然と共生していくための人間の智慧だったと思うんです。そして山とか、山の神に対しては、山に生きる人々はきちんとエチケットを守っていました。生理的要求があっても、どこそこかまわず「する」ということはいないんです。変な話ですが「クソヒリ沢」という地名が残っているところもあります。それは、そこでしか、用を足してはならないという不文律から発したものだわけです。そういうことを、展示の中から読み取れるような資料館であると思うわけです。

4、炉端からドラマを読み取れ

また、第二展示室には立派な炉端が作られてい

ますね。あの炉端というのは、家族生活の秩序とか規律を象徴するような場所なんです。正面には「ヨコザ」というのがあって、一家の主人の座る場所です。その右は「カカザ」といって主婦の席になる。その後ろは「ハシリ」といっていわゆる流しがあつた。その向かいが客座で、ヨコザの向かいがキノシリ（木尻）といつて薪を置く場所。「嫁はキジリから」といって、薪の陰から手をあぶらせてもらったものです。今は、一家の主人は粗大ゴミのように扱われて、炉端のある家でも嫁などが一家の主の席へどんと座って居たりしますが昔はとんでもないことだった訳です。そうして家とか家族の規律を保ってきた、いわば家庭教育の原点でもあつたのです。そういうことを説明してあげればいいと思います。

そしてたくさんの「へら」も展示されていますが、このへらにも深い深い意味があるんです。さきほどの炉端にも関係しますが、農家の主婦の座というのは、昔から大変重要だったんです。作物の配分、貯蔵、加工から毎日の食事のとりしきりまで、全て食物に関することは農家の主婦が権限をもっていたんです。新しい嫁さんが来て、この権利を獲得するまでには長い長い時間が必要だった。その農家の主婦の座の継承式にあたるのがいわゆる「へら渡し」です。私は30年前に同じ北上山地である江刺で農家の押し入れに隠れてこの「へら渡し」の式を目撃することができた数少ない民俗学者のひとりです。

ある日、カガ様が嫁にいうんです。今晚仕事が終わってから少し「ハナシコ」がある。と。嫁は周囲の気配からうすうす気づいていますが、知らないふりをしていつものようにヨメ座にすわります。そうすると、カガ様が今日はここへ座ってくれ、と上座を指します。遠慮しながらもきつい口調に負けて、いずらそうにそこへ座った嫁にカガ様は、「あなたはこの家に嫁にきて何年になる」と、問いかけます。そうしてやりとりをしたあとに、「あなたはもうこの家のことはなんでもできるようになった。場合によっては私以上にできる。私が教えることはなにもない。」と。そうして「明日からどうぞ俺たちの面倒を見てください」と言い渡すのです。嫁は、とうとう来た！と、心の中で思っているわけですが、口ではまだまだ未熟だからと丁重に断ろうとします。カガ様はきっぱりとして主張してヨメを納得させます。炉端の鍋の蓋の上には「へら」と「シャモジ」が×状におかれていまして、カガ様はそれをもって2回カチカチとたたき、元に戻します。次にヨメ様が同じことをくりかえします。これが「へら渡し」の儀式なんです。そうして、その晩は遅くまで女同志で、だん

なの悪口など語り合つて和やかに「政権交代」をするというわけです。そうしたドラマが、ひとつひとつの民俗資料にたくさんつまっているんですね。

5、たゆまぬ研究で常に新鮮さを

そういう訳で私は大急ぎで資料館をみてですね、この資料の多さにびっくりしたわけです。私どもの県立博物館を考えると多すぎる位の資料がたまっている。これからは、少しずつストーリー性を持たせてきちんと研究して説明してあげることが必要なんじゃないかと思ひます。このように膨大な資料があつた背景としては、やはり昭和38年の国における民俗資料の緊急調査があると思ひます。私も少し関係してましたからあの時に、第一番に調査をする必要のある場所の一つとして川井村を挙げたわけです。それから今日まで、研究と調査が継続されて資料の散逸を防ぎ、このように集大成したものと思ひます。

私達県立博物館としても、可能な限り応援していきたいと思ひておりますが、なんといつても川井村の力で専門の学芸員を置いて、常に新たな調査研究をして展示をしていくことが大事だと思ひます。初めはもの珍しくて、見物にやってきますが、一巡すると人は来なくなります。人というのは、そういうものです。また、博物館とか資料館とかいうものは新しい情報発達をしなくなると人はこないんです。そういうものです。民俗資料といふものは特に意味がわかつて大事だと思ひ人には、非常に貴重なものですが、その存在意義がわからない者にとっては、なんの価値もないものに映ります。一番に意味を判ってもらわなければならないのは、川井村民であろうと思ひます。村民がその意味を知らなければ、自ら誇りに思ふこともなく、まして村の外に向かつてこの資料館を守り育てていこうとする意欲が湧いてこないからです。私は近く神戸で開かれる全国の博物館の研究会でこの資料館の紹介をしてこようと思ひています。北上山地の暮らしといふものは、独自の部分もありますが、一方では全国の山地で暮らし人にとって共通の部分も多いわけです。その意味では、このように沢山の資料で山地の暮らしを将来に向かつて永久に保存し伝承していく仕事はたいへん貴重なものであります。どうか資料館の関係者だけでなく、村民挙げてこの施設を育てていくよう切望して私の話を終わりたいと思ひます。ご静聴ありがとうございました。

(平成6年11月3日 川井村民文化祭／資料館落成記念講演から。文責 編者)

資料館のすべてがこれ一冊でわかる

「資料館ガイド・収蔵資料目録」

B5判320ページ

領 価 3,000円

ご希望の方は資料館まで

4月刊行
予 定

○資料提供の方には1冊贈呈されます。



資料館運営委員決まる 委員長に芳内留次郎氏

川井村北上山地民俗資料館 運営委員
(任期 平成7年12月1日～8年11月30日)

資料館名誉館長兼非常勤学芸員 (岩大講師)
名久井芳枝 滝沢村鶏飼滝沢ニュータウン2-3-7

県立博物館民俗担当主任専門学芸員
中田功一 盛岡市上田字松屋敷34

学識経験者 (村議会議長)
道又邦彦 川井村大字小国

学識経験者 (村教育委員長)
八木勇太 川井村大字川井

文化財調査委員長
芳門留次郎 盛岡市高松2丁目32-12

文化財調査副委員長
巢内亥十二 川井村大字川井2-90-2

名誉館長兼非常勤学芸員に 名久井芳枝氏を委嘱



資料館では学芸員が不在の状況となっていますが、このほど岩手大学講師の名久井芳枝氏を名誉館長兼非常勤学芸員として委嘱しました。同氏

は当館のモニュメントの作者であり、民俗資料実測図の第一人者として著名な方です。国の重要民俗文化財指定に向けて、何かとご指導をいただくことになりました。

次の企画展のおしらせ

「北上山地の こうもりたち」



新発見チチブコウモリほか

(4月下旬開催予定)

次の企画展では北上山地の
コウモリを実物のハクセイや
写真パネルでご紹介します。

昨年冬に発見された全国的
にも珍しいチチブコウモリが
いよいよ公開されます。

お楽しみに。

企画展共催者募集します。

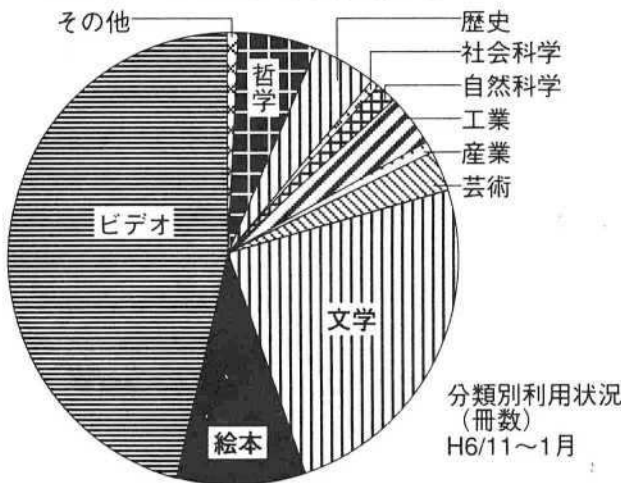
○写真展、作品展などにご活用ください。

●資料館利用状況 3月までに 4,800人

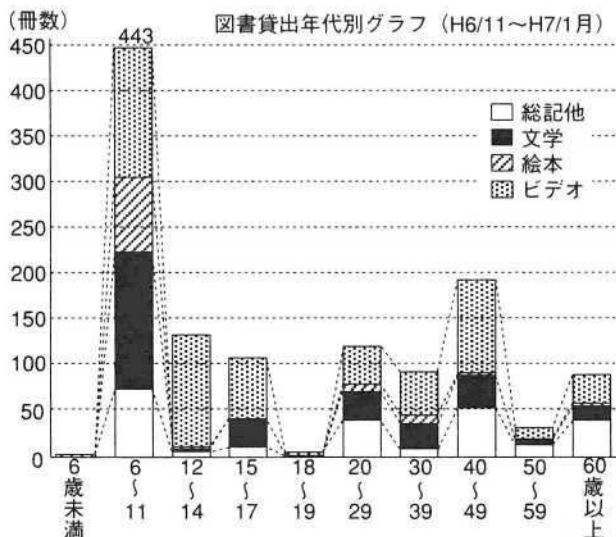
川井村北上山地民俗資料館利用状況 平成7年3月26日現在

	川井村北上山地民俗資料館								図書利用状況			合計		
	個人				団体				公用	小計	図書		AV	小計
	一般	学生	児童	免除	一般	学生	児童							
11月				2002				230		2232	160	161	321	2,553
12月	160	10	18	0	28	0	0	41	0	257	183	198	381	638
1月	117	2	26	0	0	0	0	0	59	204	151	117	268	472
2月	224	5	30	85					3	347	170	132	302	649
3月	84	3	24	10	37	0	69	24	15	266	120	110	230	496
累計	585	20	98	2097	65	0	69	295	77	3306	784	718	1502	4,808

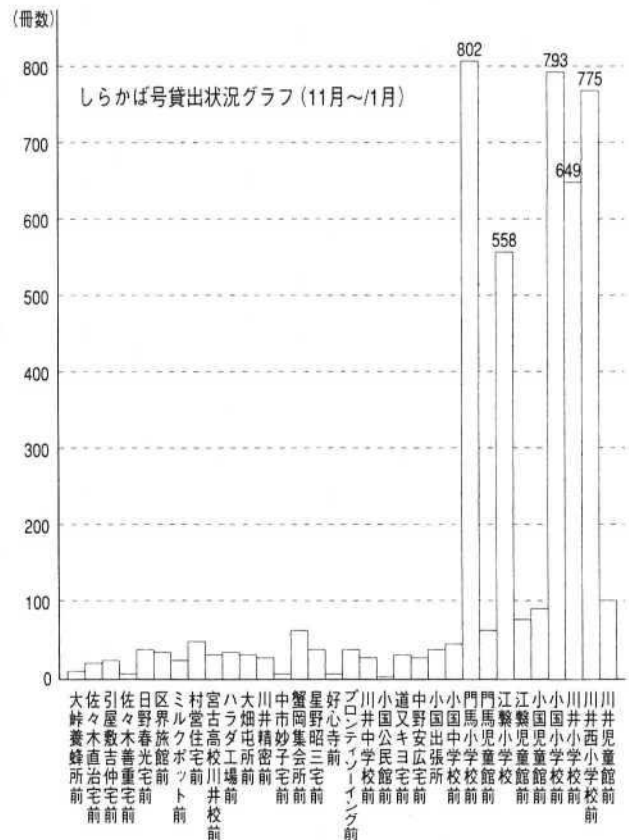
●図書館利用状況 ビデオに人気集中!



●年代別利用は小学生が断トツ。 40代も健闘。



●しらかば号利用状況 門馬小前が第一位。



利用者カード忘れてもOK。

図書館に来る方で「カード忘れたから」と、本を借りずに帰る人がいます。コンピューターは登録した人は覚えていますが、忘れても名前、生年月日で利用OKです。もちろんなるべくなくさないよう、大切にしてほしいのですが。